

奈文研

ニュース

No.22

sep.2006

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 文化財研究所
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
<http://www.nabunken.jp/>

白虎特別展示の回顧

あの何とも言えない喧噪^{けんそう}が去ってはや3ヵ月が過ぎました。飛鳥資料館始まって以来のお客様をお迎えするとともに、多くの関係諸機関にご協力をいただき、かつてない激動の数ヶ月間を過ごしました。ここにその一端をご紹介します。

飛鳥資料館でキトラ古墳のはぎ取られた壁画を展示することは、去年の秋から各方面での検討がおこなわれ、最終的には年明けから徐々に現実味を帯びて話されるようになりました。しかし最終的に実施と体制が決まったのが3月に入ってからであったため、準備の期間がなく、関係する方々にいろいろとご迷惑をかけることになりました。

3月上旬に準備のための会合を開き、3月16日にマスコミ発表をおこなって具体的な準備に入りました。まずケースです。今回のケースは、湿度を60%に保つために気密性が高く、ケース内部で空気が循環する設計となっています。照明も極力照度を落とし、約60ルクスとしました。展示会場に関しては、地下の特別展示室では多数の来館者に対応する導線がとりにくいことから、講堂を改装してそこに壁画と石室模型を置くことが決まりました。しかし、高めの設計になったケースを、どのように見せるのか



白虎特別展示(平成18年5月11日~28日)

が課題となりました。結局、車椅子用も兼ねたスロープとお立ち台を急遽製作して対応しました(写真)。駐車場対策は明日香村文化財課のご協力を得て、飛鳥資料館前の駐車場を借りるとともに、土日は桜井市の県立農業高等学校の構内をお借りすることができました。交通対策では奈良県警の橿原署と桜井署のご指導のもと、飛鳥資料館前の県道にコーンを多数設置することにより、違法駐車対策としました。

こうした準備の後、5月10日に奈良県警の自動車警ら隊のご協力を得て、白虎を奈良文化財研究所保存科学棟から飛鳥資料館まで運搬しました。翌11日は朝9時から明日香村民特別公開をおこない、2時からテープカットと式典の後、内覧会をおこないました。夜になってからはテレビ朝日、報道ステーションの生中継もあり、この日は大変長い一日となりました。その後28日までの17日間で計60,018人のお客様の来館を得、大成功のうちに特別陳列を終了することができました。

おおむね順調な展示だったとはいえ、いくつかの反省点が残されました。まず展示の仕方です。ケースの構造がやや腰高だったこともあり、手前方向からスロープを登っていただき、正面上方からのぞき込む展覧方法をとりましたが、やはりお一人の観覧時間が制限された点は多くの方からご指摘をいただきました。それほど大きくない平置きの展示品を、多くの方に見てもらおうとした場合に、ある程度やむをえない方法かと思い実施しましたが、検討の必要があると感じました。また多くのお客様に長時間お待ちいただくことへの対策も、事前にいろいろと検討したのですが、今後に残された課題です。交通関係は比較的順調でしたが、やはり休日とそれ以外の日では対応が異なっており、とまどわれたお客様も多かったようです。とはいえ、大きな混乱もなく終了することができましたこと、館員一同皆様のご協力に感謝申し上げます。(飛鳥資料館 杉山 洋)